

■長井長義 薬学者。ベルリン大学より博士号を受けて帰国、日本における科学的薬学樹立に尽力、ドイツでも長く称賛された。

ながいながよし

阿部正弘首座1845＝ 阿波国名東郡常三島長刀町(徳島市)で、代々藩医の長井琳章の嫡子に生まれる。母は田鶴子。幼名朝吉。

妹2人が誕生したが、

北斎没・・・1849＝ 4歳：母が死去。継母と折合い悪く、以後、祖母に育てられる。

ペリー来航・1853＝ 8歳：阿波藩漢学塾で修行。不憫に思った藩主蜂須賀斎祐の思召しで、その小姓となる。

開国開港・・・1854＝ 9歳：

安政の大獄・1859＝14歳：元服して直安と称する。医師として父の代診を勤める。

8月18日政変 1863＝18歳： 藩の所蔵する貴重な文献「舎密開宗」全21巻を借り出すなどして、すでに化学に親しんでいたが、

薩長同盟・・・1866＝21歳： 藩の英才に洋学を学ばせようとした蜂須賀侯に選抜され、芳川顕正ら6名と共に長崎留学。舎密術家上野彦馬宅に寄寓して、化学志向が強まり、マンスフェルトらから西洋医学・語学等を学ぶ。

明治維新・・・1868＝23歳： 藩命により帰藩。江戸に呼ばれた蜂須賀侯の軍医として随行。

戊辰戦争終・・・1869＝24歳： 一時伊東玄伯について蘭学学んだ後、大学東校(後の東大医学部)に入り、石黒忠恵の勧めで理化学修行。成績優秀品行方正で少寮長に選ばれるも、猛者連中取締まりに追われ、勉強どころでなくなったところ、

廃藩置県・・・1871＝26歳： 第1回海外留学生に選ばれ、ワシントンで岩倉使節団員に会い、ロンドンで他留学生と別れ、 唯一人ドイツに渡り、公使青木周蔵の世話になり、ドイツ人宅に寄宿して、ベルリン大学に入学。

学問のすすめ1872＝27歳： 日本政府が官費留学生全員を帰国させることになったため、急遽私費留学の許可をとり、 もともと医学を修めるべく派遣されていたが、ブラウン(植物学)・ホフマン(化学)・チーマン(有機合成) 教授らの指導を受けるうち、ホフマンの実験や講義に魅入られ、ついに化学に転向。

三つの内乱・1876＝31歳： 医家の後継ぎ避けるためか、一方的に長義と改名宣言。

西南戦争・・・1877＝32歳： 卒論を完成した直後、身体を壊し、長期にわたって静養しながら(ともに学んでいた松本鉦太郎が病臥したためその介護をしていたらしい)、学期末試験の準備をしていたところ、

琉球処分・・・1879＝34歳： 突然ホフマンから呼び出しを受け、その助手に選ばれ、 実験等で優れた成績を挙げて、

明治14年政変1881＝36歳： *ベルリン大学助手となる。ベルリン大学よりDr. der Philosophieの学位授与。 この間、テレーゼと出会う。

秩父事件・・・1884＝39歳： *薬業に西欧の科学技術を導入しようとしていた長与専斎らの意を受けてドイツに赴いてきた東大製薬学科教授柴田承桂と大日本製薬会社社長新田忠純に説得され、帰国し、東京大学教授、内務省御用掛、衛生局東京試験所長、中央衛生会委員となる。

内閣発足・・・1885＝40歳： 漢方薬マオウから、気管喘息の治療にかかせない成分となるエフェドリンを発見。

帝国大学始・・・1886＝41歳： ドイツに私費出張し、アンダーナッハで、テレーゼ・マチアス・シューマッハーと結婚式を挙げ、新妻同伴して帰国。東京化学会会長。中央衛生会委員に就任。

国民之友始・・・1887＝42歳： 長男が誕生。日本薬学会会頭に就任。

初の対等条約1888＝43歳： 長女が誕生。理学博士の学位授与。

帝国憲法発布1889＝44歳：

帝国議会始・・・1890＝45歳：

大本教・・・1892＝47歳： 次男が誕生。

郡司千島探検1893＝48歳： 東京化学会会長を辞任。帝国大学医科大学教授に就任。

日清戦争始・・・1894＝49歳：

日清戦争終・・・1895＝50歳： 塩分分析法を研究し、塩専売制度確立の骨子を作る。

八幡製鉄始・・・1897＝52歳： 資生堂福原有信に乞われて、女性用化粧水“オイデルミン”の処方をつくる。

Bushidou・・・1899＝54歳： 薬学博士の学位授与。

ピノ/国産化・・・1900＝55歳： 父琳章が逝去。

田中正造直訴1901＝56歳： 女子高等教育の重要性から、日本女子大学校の創立に尽力し{香雪化学館}を創設。徳島県に出張し、'我が薬学は従来欧州の研究結果を学ぶに過ぎぬ状態を脱し、今や独立研究の実力を得た'と薬学会員を激励。

教科書疑獄・・・1902＝57歳： 勲三等瑞宝章。

この間、国際的な学校の必要性から{雙葉会}を創立し、校長となる。

満鉄発足・・・1906＝61歳： 帝国学士院会員。

韓国反日暴動1907＝62歳： フィラデルフィア薬学校名誉教授。総長から欧州視察の命受け、ドイツ化学会40年記念祝賀会に日本化学会・薬学会を代表し出席。独逸学協会学校校長に就任。

アラビヤ創刊・・・1908＝63歳：

伊藤博文暗殺1909＝64歳： 勲二等瑞宝章。プロイセン皇帝より星章附赤鷲第二等勲章を受領。

大逆事件判決1911＝66歳： 結婚後25年銀婚式を挙げる。日独協会設立と共に理事長となる。

大正政変・・・1913＝68歳： 東京女子師範学校講師となる。

第一次大戦始1914＝69歳： 日本薬学会名誉会員、満州薬学会名誉会頭、朝鮮薬学会名誉会員。

21ヶ条要求・・・1915＝70歳： 内国製薬株式会社顧問。

ロシア革命・・・1917＝72歳： 東大教授在職25年祝賀会が上野精養軒にて催される。

ベトナム条約・・・1919＝74歳： 東京女子師範学校講師を退任。勲一等瑞宝大綬章。

大暴落・・・1920＝75歳： 独逸学協会学校校長も退任。富山薬学専門学校の国立化を支援、

原敬首相暗殺1921＝76歳： 東京帝国大学を退官、名誉教授となる

水平社結成・・・1922＝77歳： 来日したアインシュタインの出迎え役となる。

関東大震災・・・1923＝78歳： 神田薬学校が明治薬学専門学校に昇格するのを支援。徳島市千秋閣での日本薬学会総会に出席。

護憲三派圧勝1924＝79歳： 妻テレーゼが死去。

治安維持法・・・1925＝80歳： 熊本薬学専門学校の国立化を支援。徳島高等工業学校開校式典に池口慶三・慶松勝左衛門と共に臨席。

円本時代始・・・1926＝81歳：

金融恐慌・・・1927＝82歳： *独逸赤十字第一等名誉賞を贈られる。ドイツ化学会・薬学会合同の歓迎会に招かれ、ホフマンの肖像を 鑄したプラquetteを受け、ドイツ薬学会名誉会員に推薦される。ヒンデンプルグ大統領に謁見。

共産党事件・・・1928＝83歳： 徳島市千秋閣における講演会に出席。満州薬学会総会に出席。舌根癌腫を発症。昭和天皇即位式奉祝を兼ねて邸内研究所落成式を行う。

世界恐慌・・・1929＝84歳： *ローマ法王庁より聖セブルクロ勲一等大十字章を贈られ、没した。 の原博武「この人長井長義」、「没年日本史人物事典」、